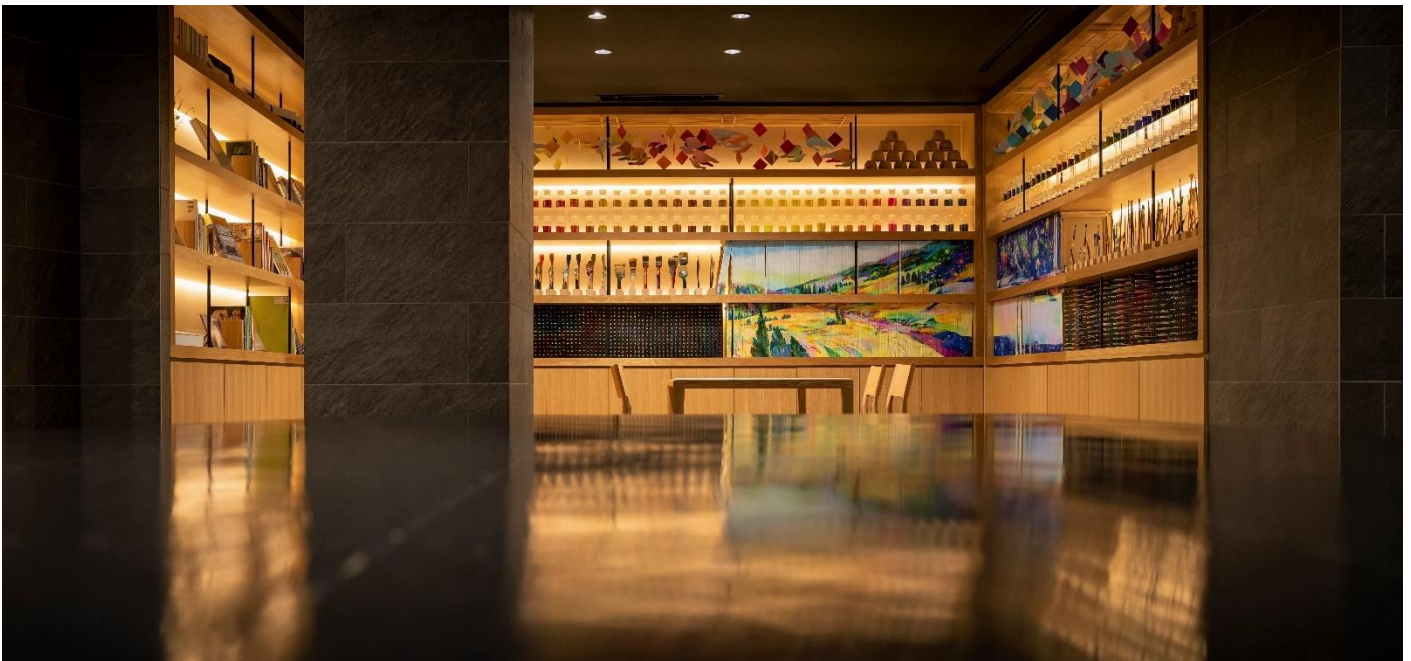


神奈川県 箱根・仙石原温泉 「星野リゾート 界 仙石原」が 2018年7月27日に開業しました ～内なる表現欲と出会う「アトリエ温泉旅館」～

星野リゾート（所在地：長野県北佐久郡軽井沢町、代表：星野 佳路）は、箱根・仙石原エリアに「星野リゾート 界 仙石原（せんごくはら）」（以下、界 仙石原）を2018年7月27日に開業しました。コンセプトは「アトリエ温泉旅館」。温泉旅館の滞在を通して五感を研ぎ澄まし、自身の内側にある表現欲を刺激する場所になることを目指します。また、アートや表現することを身近に感じてもらう取り組みのひとつとして、開業前の2018年7月10日～20日の期間に「アーティスト インレジデンス 箱根仙石原」を、すどう美術館（所在地：神奈川県小田原市）、及び湘南アートベース（所在地：神奈川県大磯町）と共催しました。国内外のアーティスト12名が界 仙石原に宿泊し、箱根で受けたインスピレーションをもとに創作活動をおこない、完成した作品を客室や館内に展示しています。



界 仙石原とは

界ブランドの15施設目となる「界 仙石原」は、標高約700メートルの仙石原高原の雄大な自然に抱かれた全室露天風呂付きの温泉旅館です。コンセプトは、ミュージアムが多く集まるエリアの特性に着目し「アトリエ温泉旅館」としました。アートを鑑賞するものではなく、表現するものと捉え、アーティスト・ゲスト・スタッフの三者が、様々な手法や材料で表現していきます。画材や絵筆が並ぶアトリエに仕立てたライブラリーでは、毎日ご当地楽（ごとうちがく）を開催します。施設は、水庭を正面に望む温泉棟、窓から雄大な景色を楽しめる本館、そして木立に囲まれたわずか3室の別館からなっています。尚、別館は2018年11月に完成予定です。



「アーティスト インレジデンス 箱根仙石原」とは

ARTIST IN RESIDENCE HAKONE SENGOKUHARA



アーティスト インレジデンスとは、アーティストの育成や芸術の発展を目的として国内外の芸術家がひとつの地域に一定期間滞在し、創作活動を行う取り組みです。開業前の2018年7月10日～20日に行われた「アーティスト インレジデンス 箱根仙石原」は、過去にアーティスト インレジデンスの開催実績がある、すどう美術館と湘南アートベースの主催で開催しました。

アーティスト インレジデンス 箱根仙石原では、スロベニア、イタリア、ドイツ、中国など、国際色豊かな12人のアーティストが公募により選ばれ、仙石原エリアに集結しました(参加アーティスト情報は参考資料に掲載)。アーティスト達は、箱根の自然や文化が感じられる観光地を巡り、界 仙石原に宿泊をし、そこから得られたインスピレーションをもとに、仙石原にある星槎大学箱根キャンパスにて作品を制作しました。期間中には、アーティスト達が創作している様子を間近で見られる制作公開や、創作中の作品について意見交換を行うトークイベント、アーティストと地域の子供達と一緒に作品づくりをするワークショップが開催され、地域の人々や界 仙石原のスタッフと交流を深めました。

「アーティスト インレジデンス 箱根仙石原」の概要

- 日程：2018年7月10日～20日
- 会場：星槎大学箱根キャンパス、星野リゾート 界 仙石原
- 主催：すどう美術館、湘南アートベース ■共催：星野リゾート
- 後援：神奈川県、小田原市、箱根町、星槎グループ 他
- URL：<https://kai-ryokan.jp/sengokuhara/artistsinresidence/>

「制作公開」



アーティスト達の制作現場を自由に見学できる時間を設けました。

「ワークショップ」



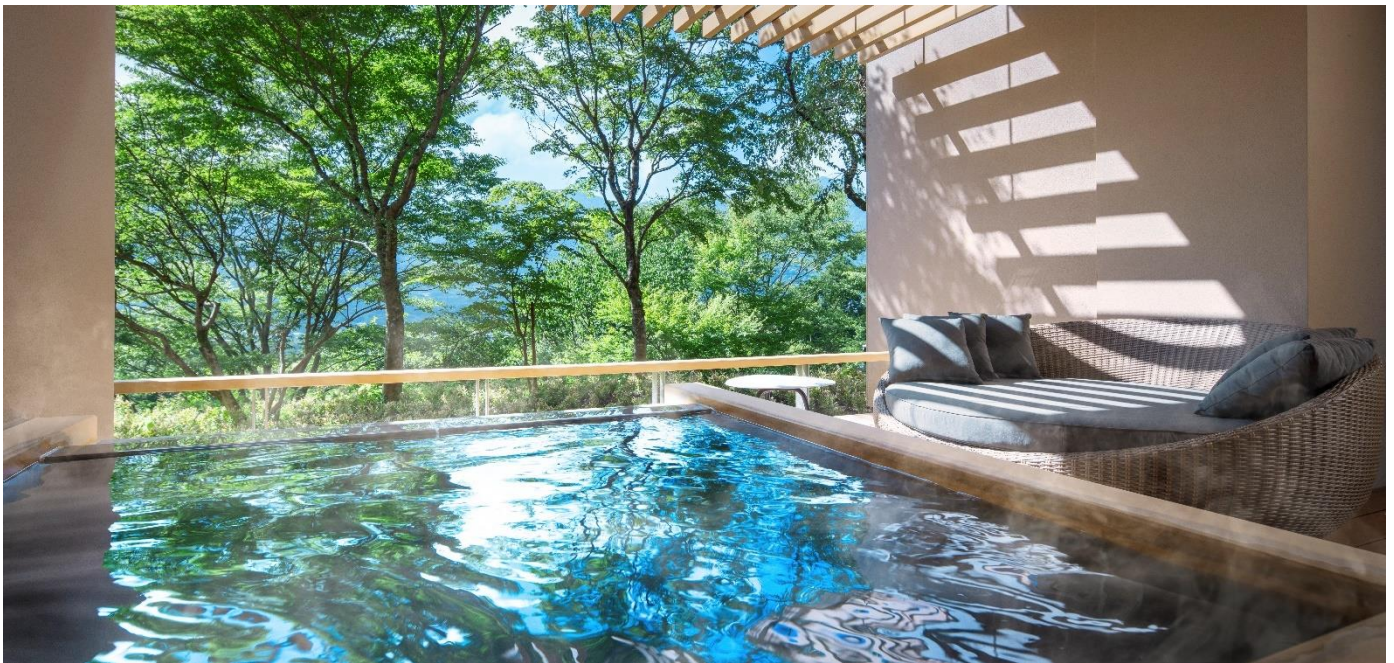
地域の子供達や界 仙石原のスタッフが、アーティスト達と一緒にUFOを作り、宇宙の旅を体験するワークショップを行いました。

「トークイベント」



アーティスト達が制作中の作品について、どんなインスピレーションを受けて表現したかを発表し、質疑応答の時間も設けました。

客室：アートと大自然に包まれるご当地部屋「仙石原アトリエの間」



界 仙石原の客室は、全室が地域の特徴を存分に感じられるご当地部屋「仙石原アトリエの間」です。客室には「アーティスト インレジデンス 箱根仙石原」で国内外のアーティスト12名が手がけた作品が展示されています。客室ごとに作品が異なり、アーティストの筆使いや、昼夜に作品の印象の違いを感じることができます。また、小田原のガラス作家、「ipada(イパダ)」の濱館 寛(はまたてひろし)氏と村木 未緒氏のデザインによる、ガラスのランプシェードが設置されています。

全室露天風呂付きの客室は、琉球畳の上にソファを配した和洋室タイプ。客室の大きな窓や、テラスにある露天風呂からも山々が連なる仙石原の雄大な風景を望めます。大浴場と同様、大涌谷温泉から引いた湯の花が舞う温泉をゆったりと堪能できます。

	客室名	定員	面積	室数
本館	仙石原アトリエの間 露天風呂付き和洋室	2~3名	63-70平米	13室
別館	仙石原アトリエの間 露天風呂付き和洋室 (11月完成予定)	2名	45-50平米	2室
別館	仙石原アトリエの間 スイート (11月完成予定)	2名	103平米	1室

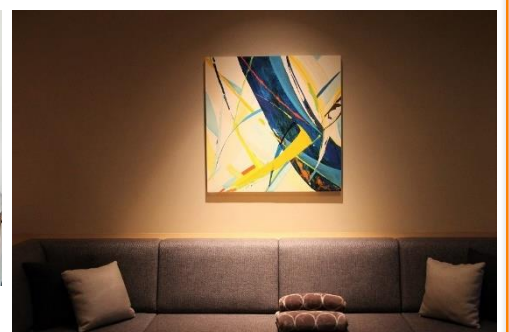
作品一例

(アーティストコメント)

界 仙石原の客室に入った瞬間、「静(せい)」を感じました。窓を開けた時に感じたそよ風や、窓から見える景色。そして、初日の箱根観光で遊覧船に乗車した時に感じた風や、芦ノ湖の色、そして青空から感じたものをこの部屋に描きたい、という思いを「動(どう)」として表現しました。



アーティスト：田中 紗樹(たなか さき)氏



ご当地楽（ごとうちがく）：自身の内なる表現欲を体現する

雄大な山々に囲まれ喧噪から離れた仙石原は、自分の感性に向き合い、作品制作や文筆活動に没頭するのに適した場所として、多くの作家や芸術家に愛されてきました。この特徴を活かし、界仙石原のご当地楽ではアートを観賞するのではなく体現することをテーマに、客室に展示されたアーティストの作品や、窓の外に広がる景色などから得たインスピレーションを自由に表現できる場を用意しています。



施設内にあるアトリエライブラリーには、アートや建築に関わる本が置かれ、自由に手に取ることができます。また、約2,000本の色鉛筆の中から好きな色を選び、スケッチブックにアートを表現することができます。

<アトリエライブラリーのアート>

- ・ 絵の具の原料が入った薬瓶で朝から夜までの時間の移り変わりを表現したアート *写真左
- ・ すずき野原を表現している絵筆 *写真中央
- ・ キャンバスの側面だけを使用した、すずき野原と富士山を表現したアート (制作：ほりこしみき氏)

*写真右

【手ぬぐいの絵付け・色付け体験】

毎夜行われるご当地楽では、型染作家の小倉充子氏によるオリジナルの手ぬぐいに、絵付け・色付けをする体験ができます。この手ぬぐいには箱根の宿場町や、仙石原をイメージした野鳥や草花をあしらったデザイン、何も描かれていない真っ白な手ぬぐいなど、6種類あり、好きなデザインを選び、布クレヨンを使い好きな色をのせたり、自由に絵を描いたりして完成させることができます。



<手ぬぐいの絵付け・色付け>

- 日程：毎日
- 時間：19:15/21:15 1日2回 *チェックイン時要予約
- 場所：地下1階 アトリエライブラリー
- 料金：無料

【ワークショップ】

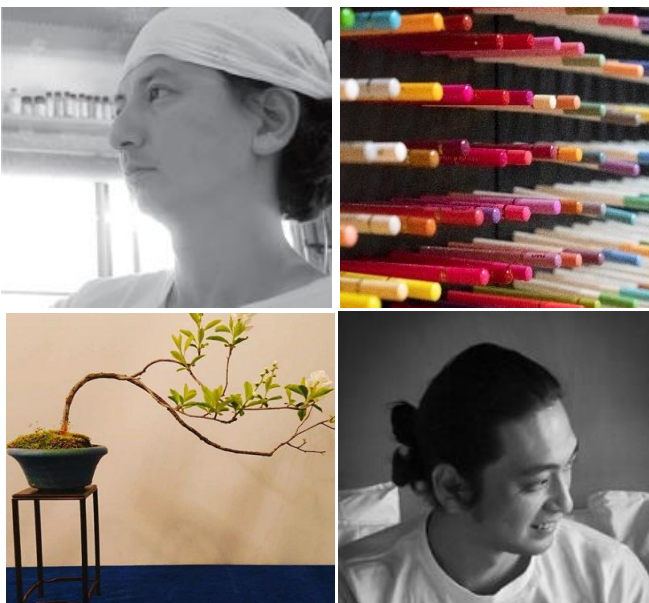
毎週日曜日に開催されるワークショップでは、デッサンや盆栽、写真、書道など様々なジャンルの芸術家を招き、アーティスト・ゲスト・スタッフの三者が様々な手法で表現できる時間を設けます。

<ワークショップ>

- 日程：毎週日曜日
- 時間：10:00~12:00 *チェックイン時要予約
- 場所：別館サロン
- 料金：1名あたり1,000~3,000円 *内容により異なる

ワークショップ今後の予定

デッサン：湘南アートベース 朝比奈 賢氏
 盆栽：盆栽職人 中村 康宏氏
 写真：靖山画廊 遠藤 桂氏 など



温泉：白濁した湯で楽しむ光の水庭と四季の移ろい

大涌谷から引いた湯は、やや白濁したPh2.0の酸性の硫酸塩・塩化物温泉で、短時間の入浴で肌が滑らかになり、身体がしっかりと温まる特徴があります。大浴場の内風呂には「あつ湯」と「ぬる湯」の2種類の湯船が備わり、酸性の温泉の「あつ湯」で温まった後に、「ぬる湯」に浸かると、肌を落ち着かせることができ効果的です。

露天風呂では、桜やもみじなどの木立が織りなす四季折々の景観を眺めながら湯浴みが楽しめます。また露天風呂の外側に流れる水庭には、昼間に光を蓄えた蓄光石が底にちりばめられ、夜になると星空のように美しく輝きます。

*pH2.0の酸性とは・・・果実のレモンとほぼ同じ酸性レベル



食事：美しい器を楽しみながら、焼き石でいただく会席料理



台の物：山海石焼

界 仙石原では、器や提供方法に趣向を凝らし、「アトリエ温泉旅館」を象徴する会席料理を提供をしています。

■先付：

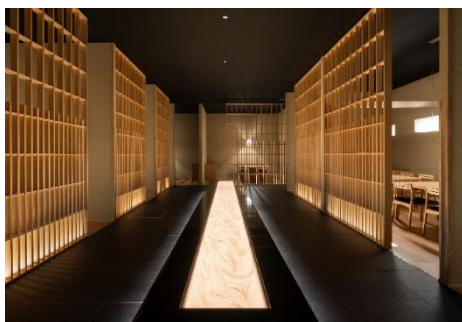
サーモンと相性の良い季節のフルーツを瞬間燻製。蓋を開けた瞬間に広がる煙は大涌谷の噴煙をイメージしました。

■宝楽盛り（ほうらくもり）：

八寸やお造りなどが盛られた宝楽盛りでは、大涌谷の噴煙の広がりを表現した器や、絵筆箱に見立てた器を使い、器からも遊び心を感じられる一品に仕上げました。

■台の物：

仙石原が火山活動で出来た土地であり、山と海が近いことから、約200度に熱した石を溶岩に見立て、牛肉や鴨肉などの山の幸と海老や鮑などの海の幸を、2つの石で焼いて味わう山海（さんかい）石焼を用意します。



食事処



先付：サーモンの瞬間燻製
旬のフルーツと小野菜



季節の会席



星野リゾート 界 仙石原（神奈川県 箱根・仙石原温泉）

古くから別荘地として発展し、美術館や博物館の点在する箱根仙石原。その地で、アーティスト・ゲスト・スタッフ三者で表現するアトリエ温泉旅館。全ての客室に露天風呂を備え、温泉に浸かりながら仙石原の雄大な絶景を望めます。

・所在地：〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原817-359

・TEL：0570-073-011（界予約センター）

・客室数：全16室（本館13室、別館3室）

・料金：1泊2食付き 37,000円～（2名1室あたりの1名料金、税サ込）

・URL：<https://kai-ryokan.jp/sengokuhara/>

本件に関する問い合わせ：星野リゾート グループ広報

TEL：03-5159-6323 FAX：03-6368-6853 E-mail：pr-info@hoshinoresort.com

これまでの活動実績

西湘地区 アーティスト イン レジデンスは、2011年から1年おきに小田原エリアで開催。アーティストの成長の機会創出と社会におけるアートの普及を目的に開催しています。

国内外のアーティストが集まり、交流をしながら作品を制作することは自身の経験を豊かにします。また、公開制作やワークショップを実施することで地域の人々にアートに興味関心をもってもらい、アートという接点によって、文化や習慣の違いを超えた交流が生まれ、発展していくことを願っています。



【主催者】 「すどう美術館」 館長：須藤 一郎氏 （副館長：須藤 紀子氏）



1936年東京生まれ。
東京大学法学部卒。第一生命保険相互会社（現株式会社）へ勤務し、1998年6月に定年退職。美術品の収集に目覚めたのは、1982年池田20世紀美術館で菅創吉（すがそうきち）氏の作品と出会ったのがきっかけ。そこから美術品を集めはじめ、1990年自宅を「すどう美術館」として開放。1996年学芸員の資格を取得。1998年より東京銀座に拠点を移し活動。エッセイ集「世界一小さい美術館ものがたり」を刊行。2007年「すどう美術館」を小田原に移転。「出前美術館」「アーティストインレジデンス」などの活動を行う。

URL:<http://www.sudoh-art.com/>

【主催者】 「湘南アートベース」 代表：朝比奈 賢氏



神奈川県在住。1974年生まれ。1997年バージニア工科大学に交換留学。1999年に横浜国立大学建築学科を卒業後、独学で絵画を学ぶ。2005年すどう美術館の海外研修生として、マドリッドに留学し、初個展。翌年「若きアーティスト達からのメッセージ展」すどう美術館賞受賞。その後、スペイン、ドイツ、アメリカなどのアートフェアを中心に作品を発表。近年は国内外で国際交流企画に携わる。現在、自宅兼アトリエを開放し「大磯アートハウス」を運営。

URL:<http://shonanartbase.wixsite.com/shonan-art-base>

<朝比奈 賢氏からのコメント>

アーティスト イン レジデンスとは、ある土地に滞在し、作品制作をすることです。見知らぬ人と寝泊まりすることを想像してみると、言葉や文化の違いの壁が大きくて、どう振る舞っていいのかわからなくなってしまうのではないのでしょうか？そこで、この壁を越えるためのツールが「アート」なのです。「アート」は「表現」と言い換えてもよいと思います。心の内側を正直に、絵にしたり、彫刻にしたりして、目に見えるものにします。オープンハートです。不思議と、表現を通して、文化や言葉を越えて通じ合えるのです。

欧米ではアートの支援をする企業は、社会の中で一目置かれる存在となります。文化を育てる役割を担うからです。星野リゾートとアーティスト イン レジデンスを共催し、温泉旅館のプログラムに取り込むことは、日本の未来を先取りする画期的な取り組みだと考えています。

今回は、アーティストたちが、仙石原の自然や空気、宿やスタッフの雰囲気からインスピレーションを受けた作品を作り出します。まずは、アーティストたちの感性を通した仙石原を感じてみてください。そして、その雰囲気の中でご自身を表現してみてください。

「アーティスト インレジデンス 箱根仙谷原」参加アーティスト一覧



岡野 里香(おかの りか)
長野県

2009年にドイツやスペインで個展を開催。活動を海外にも広げる。陶芸作品を中心とした作品作りを精力的に行い、最近では茶碗の制作もスタート。一つの宇宙を内包する碗をアート表現として提案する。

photo by Mina TABUCHI



Jerónimo Maya Moreno
(ジェロニモ マヤ モレーノ)
スペイン

マドリッド在住
夢をテーマに作品を制作。夢の中の予兆(サイン)を絵画で具体化し、人間や文化について表現することを追求しています。古い文化の息づく日本に滞在することでインスピレーションを得られることを期待します。



加藤 正二郎(かとう しょうじろう)
東京都

長年に亘りアジア各国で活動。近年は日本の風土や文化を再認識しながらアジア美術の系譜に連なる日本の現代絵画を制作。洋画の材料や技法から離れ、見る者の想像力を重要な構成要素とするシンプルな絵画を創作する。



Julia Ziegler
(ジュリア チェグラー)
ドイツ

ベルリン在住
自然の中のその時々的情景からイメージを得て制作を行っています。今回初めて日本を訪れます。シンポジウムをはじめとした日本の方々との交流を楽しみにしています。



鈴木 泰人(すずき やすひと)
神奈川県

2011年に多摩美術大学大学院美術研究科を修了。光や場所を題材にして多様な表現方法により発表をしている。また地域とアートの課題にも積極的に取り組み、見る事の出来ないモノや見えないモノを形にする事を基調として制作に取り組む。



Kathleen Caprario
(キャサリーン キャブラリオ)
アメリカ

オレゴン州在住
作品で、人と文化のアイデンティティをその土地で再び結びつけることを表現。その影響がどれだけあるか問いかけています。日本ではアーティストとの交流を楽しみにしています。



田中 紗樹(たなか さき)
東京都

アメリカで生まれ、香港に住んだ経験から、あらゆる土地に興味をもつ。「日常を移動させる」ことによって各地に絵を残していく。その土地のカラー、リズム、温度を感じ、創作を続けている。



Marco Useli(マルコ ユッセリ)
イタリア

イタリアサルデーニャ島ドルガリ出身
作品で連続するものごとや出来事の重なり合い、消費していく様を表現。都市や人々のパワーからインスピレーションを得て、新たなものを生み出します。そして作品をシェアして繋がっていききたいと思ひます。



鳥越 義弘(とりごえ よしひろ)
東京都

作品は、様々な「肖像」をモチーフと対峙し、感じ、触れながら描画して記録するスタイル。箱根仙石原の忘れられそうな小さな風景の断片を肖像として描きたい。



Maša Gala(マーシャ ガラ)
スロベニア

リュブリャナ在住
絵画、写真、ガラス彫刻、インスタレーション、グラフィックスなどの多岐に渡る作品の制作を行う。スロベニアにて行われるアーティスト インレジデンスのコーディネーターとしても活躍しています。



宮塚 春美(みやつか はるみ)
東京都

下北沢に生まれ育ったこともあり箱根には縁が深い。海外アーティストの箱根を見る視点を知る事で、あらためて新鮮な箱根の一面を探し表現していきたい。



Xia Hua(夏華 かか)
中国

ノルウェイ オスロ在住
作品は、ポートレートやランドスケープ、そして自分の記憶に関わるものを表現。様々な感情や想いが人物を形成することを表現しています。今回、日本の自然からインスピレーションを得て、制作で使える地元の素材や生地を探して活用したいです。